

平成24年度 学校自己評価システムシート (県立入間向陽高等学校)

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	1 授業改善を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人が主体的に取り組み実現する進路選択 4 保護者・中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 4名 生徒 7名 事務局 (教職員) 7名
-----	---------------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標					年度評価 (1 月 2 4 日 現 在)		実施日 平成 25 年 1 月 31 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>・授業は、大変落ち着いている。2011年度生徒向けアンケート結果より、約半数の生徒が、授業の理解はできていると回答し、「あまり理解できない」「全く理解できない」と回答している生徒は、十数パーセントである。「授業に対する取り組み」も、肯定的意見が増加している。一方、教員側も、理解を深めるため工夫や生徒の意欲を引き出す授業を実践している。また小テストの実施など日常的な学習の定着をはかるための取り組みを行っている教科も多い。</p> <p>・ 考査前の学習習慣は確立しているが、予習・復習など日常的な学習の不足や、授業の「受身」的傾向が見られる。</p> <p>・ 進路意識は、徐々に高まってはきてはいるが、さらなる意識の向上が望まれる。</p>	<p>基礎的・基本的事項を重視した授業改善の取り組み</p>	<p>・生徒・教職員アンケート結果を踏まえた興味・関心を持たせる更なる授業改善と生徒の意識の改革。</p> <p>・家庭学習習慣化への宿題・課題等の生徒への提示及び宿題確認テストを通じた長期休業中における自宅学習の喚起。</p> <p>・考査週間における勉強時間の確保及び補習補充授業の継続的確保。</p> <p>・科目選択にあたり、進路と結び付けられるような指導の工夫。</p>	<p>・生徒の授業アンケートや教員向けアンケートの分析など職員研修を行い共通理解を深め課題を明確にすることができたか。</p> <p>・定期考査や宿題確認テストでの検証。</p> <p>・補習等への参加者が増加したか。</p> <p>・科目選択に関し、生徒へ効果的な指導が行えたか。</p>	<p>・昨年度に引き続き、授業についての理解度は、アンケート結果より60%以上が「理解できる」と回答している。また授業のレベルについても現状で良いと答えている生徒が非常に多い。この結果については職員全体で確認し、共通理解をはかった。</p> <p>・各教科で小テストや宿題などの日常的な取り組みを行った。また、今年度から宿題確認テストを、学校全体で位置づけ、実施した。</p> <p>・補習授業等の取り組みも例年通り行った。</p> <p>・科目選択については多くの生徒が進路と結びつけて科目を選択することができた。進路意識も高まりつつある。</p>	B	<p>・依然として、授業への要望の内容や予習復習の状況などを見ると、受身的傾向は見られるが、進路を日常的に意識し授業に取り組んでいる生徒も増えてきている。生徒の状況を把握するため、引き続き生徒アンケートを実施し、職員研修会等で共通理解を深めていくことが重要である。</p> <p>・学習意欲向上のため、各教科での日常的な取り組みを継続して行うことが大切である。宿題確認テストについては、自宅学習の定着のため、今後経過を見守っていく必要がある。</p> <p>・考査週間に勉強時間の確保が不十分な生徒については、学習の喚起が必要である。補習授業等への参加も継続的に呼びかけていくことが大切である。</p> <p>・来年度の入学生から実施される新教育課程については、生徒へもその内容を理解させながら、科目選択につなげさせるような指導が必要になってくる。</p>	<p>・生徒は、真面目に授業に取り組んでいる。アンケートから予習・復習をしている生徒が増えていることがわかる。授業は、教員と生徒の双方向で創るものであり、授業を興味か持てるように改善するとともに生徒も積極的にかわることが必要である。引き続き生徒アンケートなど生徒の実情を踏まえ職員研修会等で共通理解を深め授業改善に取り組んでいくことが大切である。</p> <p>・テスト勉強の確保はもちろん日常的に学ぶことの意味を考え授業参加をしていくことが大切である。</p>
2	<p>・生徒は挨拶が非常に良くできていて、身だしなみ等も概ね良好であり、落ち着いた学校生活を過ごしている。中学校や近隣地域から、基本的生活習慣に関する高い評価を得ている。</p> <p>・新入生歓迎会、体育祭、向陽祭、三年生を送る会等の企画・立案・運営を生徒が組織的に運営するスタイルが定着している。さらにHRに呼びかけ、全校生徒が積極的にかかわる</p>	<p>生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長をはかる。</p>	<p>・教員間の共通理解と協力体制の確立</p> <p>・教員と生徒の信頼関係に基づいた指導。</p> <p>・朝の立哨指導や授業中の巡回指導など継続的な指導</p> <p>・交通安全指導における自転車運転のルール遵守の指導。</p> <p>・HRを基礎として生徒会本部、各委員会が議論を深め、組織的な運営を推進する。</p>	<p>・生徒指導に関する研修会を実施したか。</p> <p>・信頼関係を効果的につくれたか。</p> <p>・立哨指導、巡回指導、定期的生活指導、全校集会・学年集会での啓発指導が実施できたか。</p> <p>・交通ルールに対する意識を改善し、自転車のマナー向上に取り組めたか。</p> <p>・生徒会活動が全校生徒の参加を視野に入れて原案作成、提案、実施を組織的に運営できたか。</p>	<p>・生徒指導の話題を常にフィードバックし、教員の共通理解を図った。</p> <p>・一人一人丁寧に時間をかけ、納得の上進める指導を根気強く行った。</p> <p>・立哨指導、巡回指導は全教員の当番制で毎日実施しており、集会も随時全教員で当たっている。学校生活の落ち着いた雰囲気を保てた。</p> <p>・今年度初めてJAFの協力交通安全教室を実施した。実物の自転車と自動車による事故の再現は、生徒たちに強いインパクトがあった。</p> <p>・各行事の原案作成・運営について生徒会本部を中心に組織的に運営するスタイルが定着したものとなっている。前年度の総括を受けて「全校生徒の参加型」の行事として取り組</p>	A	<p>・落ち着いた学校生活を継続していくためには、今までのような指導を粘り強く続けていき、引き続き教員間の共通理解を深めていくことが大切である。全教員の協力の下、落ち着いた学校生活の基盤を更に築いていきたい。</p> <p>・社会生活におけるマナー向上に努めさせることが今後の課題である。自転車等交通マナーの改善や公共場所でのエチケットの励行が必要である。</p> <p>・生徒会本部を中心とした原案作り・運営への支援は、引き続き行うことが重要である。中学校で文化祭など行事がなくなる中で、行事を生徒会中心に各クラスを基礎に組織的に運営させることは、貴重な取り組</p>	<p>・服装は、昨年度アンケートを踏まえて決めたということによりよく守られている。学校生活も落ち着いたものとなっており、挨拶などもしっかりとできている。</p> <p>・登下校の交通のマナーについては、十分注意して学校生活を送ってほしい。</p> <p>・生徒会が中心になり原案作り、運営を行い「参加型」で行事を創ることはとても大切なことである。「参加型」を意識することは、将来社会に出ても大事なこととなるのでしっかりと引き継</p>

	<p>「参加型」の行事づくりに発展させる努力が行われている。生徒要望アンケートでも「向陽高校の一番の魅力」について「行事が盛んである」が1位となるなど行事への期待が高まっている。</p> <p>・部活動が盛んで約85%の生徒が3年間部活動を継続している。</p>		<p>・意欲、向上心を高める部活動の推進とそのため環境整備の推進。</p>	<p>・部活動加入率の維持向上ができたか。</p>	<p>むことで全校生徒を視野に入れることを具体化してきた。3年生を送る会では、1・2年生による合唱に取り組み、体育祭については、生徒会主催行事として新たに体育祭実行委員会を立ち上げ運営し、応援については、クラスTシャツ・応援団旗の作成を取り入れクラスの団結を強めた。向陽際についても大規模改修中の準備を工夫し、各クラスが企画を盛り上げた。また、行事以外にも食堂の改善など日常的なものへの取り組みも始まっている。</p> <p>・今年度も吹奏楽、女子サッカー、ソングリーダー、演劇部の関東大会以上の出場について生徒会として壮行会を工夫して取り組んだ。今年度も昨年度同様約85%加入となっている。昨年に引き続き、全校をあげての部活動加入率の向上を目指す意識を確立した。</p>	<p>みとなっている。今後もこうした生徒の変化に合わせ、生徒の自主性を引き出し自治的な力をつけていく教職員の支援が重要となっている。</p> <p>・運動部、文化部ともに活発に活動している。今後とも部活動加入をさらにいっそう促進していくことが必要である。</p>	<p>いで欲しい。食堂の改善について、全校アンケートを行い食堂と2回話し合い、要望したが、早め実現して欲しい。</p> <p>・部活動の条件整備の要望をすくい上げるルートを明確にする必要がある。PTAとしては、部活動をはじめ学校の教育活動が充実するよう支援していきたい。</p>
<p>3</p>	<p>・進路活動においてチャレンジする生徒が増えつつあるが、受験への取り組みを開始する時期が遅い。</p> <p>・生徒自らが情報収集ができるように1年次から進路に関する情報を伝達することが必要である。</p> <p>・経済的な状況の変化や上級学校の専門分野の細分化により、生徒の進路希望も個別化しつつあることへの対応を検討する。</p>	<p>生徒一人一人が主体的に取り組み実現する進路選択</p>	<p>・1・2年次、長期休業明けに宿題確認テストを実施し、早い段階から進路への意識を持たせる。</p> <p>・3年間を見通しての進路指導計画を作成し、特に1年次からの進路指導の充実を図る。</p> <p>・進路相談室を活用し、個別の進路相談の機会を増やす。</p> <p>・「進路だより」の発行号数を増やし、進路情報の発信を行うとともに、生徒の進路に関する疑問質問にも答えていく。</p>	<p>・每学期宿題確認テストが実施できたか。</p> <p>・学年団や担任との連携を取り、組織的に進路指導に取り組み、進路HRや進路ガイダンスが計画的に行われたか。</p> <p>・進路相談室での進路相談件数が増やせたか。</p> <p>・「進路だより」の発行号数を増やせたか。</p>	<p>・国語科、数学科、英語科の協力の下1・2年生で各学期に宿題確認テストが実施できた。</p> <p>・各学年とも計画通りに毎学期進路ホームルームを実施できた。進路ガイダンスも計画的に行えた。</p> <p>・1・2年生は進研模試を、3年生ではセンター模試が2回実施できた。3年生1回目の模試では96名が参加するなど模試への参加状況も良くなっている。</p> <p>・学年団との協力によりセンター試験出願者を昨年度の29名から80名に増やすことができた。</p> <p>・進路相談室を今年も開設した。相談者は昨年と同程度だった。</p> <p>・進路だよりも昨年と同程度発行できた。</p>	<p>B</p> <p>・宿題確認テストについては実施を継続するとともに、生徒が意欲的に取り組むよう促していきたい。</p> <p>・学年団との協力もあり、センター試験だけでなく、一般入試にチャレンジする生徒を増やすことができた。入れる大学から入りたい大学を目指して努力する生徒を増やすことができた。</p> <p>・部活動に熱心な生徒が多く、受験勉強を始める時期が全体として遅い傾向にある。学年団だけでなく、部活動顧問との連携を図る方法を検討していきたい。</p> <p>・一般入試受験者が志望の専門分野を十分に検討できるよう、教室に設置した進路雑誌の利用なども促したい。また、進路HRや進路だよりなどを通して進路に関する働きかけを行っているが、学年団と協力してより一層生徒への情報の伝達を図りたい。</p>	<p>・進路ガイダンスや進路HRを通じて1年、2年、3年とそれぞれの学年に応じて進路意識が高まっている。</p> <p>・一般受験が増えていることも教員側の働きかけと生徒同士の刺激が相互作用となり進路意識を高めている表れである。</p> <p>・一人ひとりが具体的に進路指導室等の活用を進めるようにさらに充実させる必要がある。</p>
<p>4</p>	<p>・PTA・後援会の行事においては、保護者間の誘い合いにより、出席率が増減する傾向がある。本部役員以外の一般理事の方のPTA活動に対する意識を高めたい。</p> <p>・向陽高校をよくする会（学校評価懇話会）での教員、生徒、保護者、地域の意見交換は、それぞれの当事者性を持った内容で行われ、生徒の成長を励ます教育的な場として深められている。また、学校の現状に対する相互理解の場として定着している。</p>	<p>地域に開かれた学校づくりの推進。</p>	<p>・各委員会の委員長と委員会担当の教員との連絡を密にし、各委員会の計画立案とその実行に今まで以上に関わっていく。</p> <p>・引き続き生徒を成長させることを中心に意見交換を行うとともに学校と保護者、地域の信頼と協力関係を深める運営を行う。</p>	<p>・各委員会の計画立案する話し合いに、その委員会の理事と委員会担当教員が組織的にかかわることができたか。</p> <p>・引き続き生徒要望アンケートに取り組み、向陽高校をよくする会へ生徒の取組みが分かる情報を報告し、意見交換の内容がそれぞれに還元され、共通理解を深める取組みが行われたか。</p>	<p>・どの委員会も委員長と担当教員が頻りに連絡を取り合い、計画立案が組織的に行われた。</p> <p>・評価懇話会の内容を広報紙に掲載した。</p> <p>・過去5年間の生徒アンケートの傾向を分析しながら取組み、生徒の率直な意見を基にPTA、地域代表、教職員で意見交換を行った。また、生徒の様子をわかりやすく知らせるために体育祭・向陽際をDVDでダイジェストにして紹介し、生徒会ニュースを配布した。お互いに当事者意識を持った双方向的な意見交換の場と発展し、向陽高校への共通理解が深められた。意見交換の内容は、生徒会ニュース、PTA広報で報告し、還元された。</p>	<p>A</p> <p>・文教委員会主催の学校見学会とスポーツ大会への参加者を増やすため、PTA理事以外の保護者の参加を促すよう努める。</p> <p>・生活委員会主催の登校視察の場所を一部変更し、日程を6月と10月の2回とする。。また、校内の緑化や保護者の融和を図るため、花植えを検討している。</p> <p>・引き続き学校の実態を踏まえ、生徒と教職員、保護者、地域代表との信頼と協力の関係がさらに深められるテーマ設定、資料づくりなど事前準備を工夫していく必要がある。また、意見交換の結果を全体に還元しつつ、学校の現状について共通理解を深めるよう運営していくことが今後必要である。</p>	<p>・花壇の花植えや体育祭、マラソン大会でのお茶だし・給水など学校に積極的に関係を持ち、支援していきたい。</p> <p>・学校教育は、子どもが変化している中で目標設定をしていくもので達成度のみを上げること目標とするより、子どもの変化に応じて達成度が維持されていくことが大切である。そうしていくことが実質的には、取り組みが向上していることを意味している。そのため、入間向陽高校をよくする会での意見交換は、学校教育を考える上で貴重な場となっている。</p>